

## 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針

### I. 都市計画の目標

#### 1. 基本的事項

##### (1) 目標年次

この方針では、古平都市計画区域（以下「本区域」という。）について、将来の姿を展望しつつ、土地利用、都市施設等の決定方針を令和12年(2030年)の姿として策定する。

##### (2) 範囲

本区域の範囲及び規模は次のとおりである。

区 分	市町名	範 囲	規 模
古平都市計画区域	古 平 町	行政区域の一部	約 703 ha

#### 2. 都市づくりの基本理念

本区域は、道央広域連携地域後志地域にある積丹半島の北東部に位置しており、地形は南北に長く、中央部を古平川が貫流しており、海岸線は「ニセコ積丹小樽海岸国定公園」に指定されている。

市街地は、古平川河口周辺の平坦地を中心に、海岸線と一般道道古平神恵内線沿線を中心に形成されてきた。

産業については、日本海の豊かな水産資源を背景とした漁業と水産加工業を基幹産業として発展してきた。

しかしながら、漁獲量の減少や漁業就労者の高齢化が進んでおり、水産加工業の総生産高の減少傾向にある。

サービス業や小売業、運輸業等の第3次産業についても就業人口は減少し、経営者の高齢化と後継者不足、購買力の流出等が問題となっており、今後は、周辺の自然環境や景観の保全により環境と共生する都市づくりを進め、観光等と連携した取り組みによる市街地の活性化が求められている。

また、少子高齢化の進行と若年層の町外への流出等により、人口は減少傾向にあり、高齢社会への対応や定住の促進等を図るため、都市環境や生活環境の充実が求められている。

古平町では、地場産業の活性化、安心して暮らせる環境の整備、健康で生きがいのある生活の創造を目指し、行政と住民が一体となってまちづくりを進めるため、その基本理念を、「協働で創る住みよいやすらぎの郷、ふるびら」

- ・郷土を愛する豊かな心を育て、地域文化を創造するまち
- ・健康で生きがいと支えあいのあるまち
- ・安心・安全・快適な住みよいまち
- ・魅力ある資源を活かす地場産業の活性化したまち
- ・みんなで考え、力を出し合う、自立したまち

としている。

本区域の都市づくりにおいては、このことを踏まえるとともに、今後は人口の減少や少子高齢化が進行することから、市街地の拡大を抑制し、都市の防災性の向上が図られ、都市の既存ストックの有効活用を促進することにより、様々な都市機能がコンパクトに集積した都市構造を目指す。

## II. 区域区分の決定の有無

### 1. 区域区分の有無

本区域に区域区分は定めない。なお、区域区分を定めないとした根拠は以下のとおりである。

本区域は、従来より都市の規模及び人口、産業の動向等から急激かつ無秩序な市街化の進行は見られず、用途地域周辺の農林漁業への影響も少ないことから、非線引き都市計画区域としてきたところである。

現在、人口及び世帯数は減少の傾向を示し、産業については停滞している状況であり、今後ともこれらが増加、発展に転じることは容易ではないと推測される。

今後は、未利用地等を有効活用しながら、これまで整備等を進めてきた都市基盤を活用したコンパクトな内部充実型のまちづくりを基本とするため、将来の市街地については現在の市街地と同程度と想定し、農林漁業と健全な調和を図りながら、豊かな自然環境や景観の保全に努める都市づくりを進める。

これに加え市街地の規模に大きな影響を与える大規模プロジェクト等の予定もないことから、今後においても急激かつ無秩序な市街化の進行は見込まれないものと判断し、区域区分は定めないこととする。

## III. 主要な都市計画の決定の方針

### 1. 土地利用に関する主要な都市計画の決定の方針

#### (1) 主要用途の配置の方針

本区域では、3・5・3号入舟線（国道229号）を基軸とし、計画的に市街地整備が進められてきた。

しかしながら、近年は、人口の減少・少子高齢化の進行、経済状況の変化など、都市を取り巻く環境の変化に対応するため、安全で快適な都市生活を持続可能とする都市を構築するコンパクトなまちづくり、さらには、低炭素型都市構造への転換を目指し、本区域における住宅地、商業業務地、工業・流通業務地の各用途を次のとおり配置する。

#### ① 住宅地

- ・本区域の住宅地は、一般住宅地及び専用住宅地で構成する。
- ・一般住宅地は、商業業務地、工業・流通業務地の周辺に配置し、複合的な土地利用を一定程度許容する住宅地として良好な住環境の形成及び保全を図る。
- ・専用住宅地は、沢江地区、浜町地区及びチョペタン川周辺に配置し、引き続き住宅地として良好な住環境の形成及び保全を図る。

#### ② 商業業務地

- ・本区域の商業地は、中心商業業務地及び地域商業業務地で構成する。
- ・中心商業業務地は、浜町地区の3・5・3号入舟線（国道229号）と3・4・4号西大通線（町道西大通線）の交点から3・5・2号東大通線（一般道道古平神恵内線）の交点までの一帯に配置し、商業、業務施設等が集積する広域的な商業拠点の形成を図る。
- ・地域商業業務地は、中心市街地の南西側隣接地区及び西部地区の3・4・1号大通線（国道229号）沿道に配置し、周辺住宅地の住環境に配慮した沿道商業地の形成を図る。

#### ③ 工業・流通業務地

- ・一般工業地を古平漁港北側の3・5・3号入舟線（国道229号）沿道、中心市街地の北側及び3・5・2号東大通線（一般道道古平神恵内線）沿道の一部に配置し、古平漁港北側の3・5・3号入舟線（国道229号）沿道には漁業・水産加工

- 業関連施設が集積しており、工業地を配置し、漁業・水産加工業の振興を図る。
- ・一般工業地のうち、中心市街地の北側及び3・5・2号東大通線（一般道道古平神恵内線）沿道の一部は、古くから工業地として土地利用がなされており、今後も工業地を配置し、その機能を維持する。

④ 用途転換、用途純化又は用途の複合化に関する方針

都市機能の混在が見られる地区については、都市構造の維持と周辺環境の調和に配慮し、適切な土地利用を検討する。

(2) 市街地の土地利用の方針

① 土地の高度利用に関する方針

役場周辺の中心拠点を含む浜町地区について、都市機能を誘導する区域とし、都市機能の維持更新・集約を図る。

② 都市内の緑地又は都市の風致の維持に関する方針

中島公園を中心とした公園の緑地空間は、良好な都市環境を構成するうえで重要な緑であり、市街地内の緑地として今後も適正に保全を図る。

(3) その他の土地利用の方針

① 優良な農地との健全な調和に関する方針

本区域のうち、集团的農用地や、国営・道営の土地改良事業等各種農業投資が実施されている区域及び実施を予定している区域の農地等については、健全な農業の維持と発展を図るため、今後とも優良な農用地としてその保全に努め、特に、農業振興地域の整備に関する法律第8条第2項第1号に規定する農用地区域については、「農業上の利用を図るべき土地」として用途地域拡大の対象とはしない。

② 災害防止の観点から必要な市街化の抑制に関する方針

- ・ 洪水、湛水、津波、高潮、がけ崩れその他の災害発生の可能性のある地区については、市街化を抑制し、緑化の促進や保全に努め、災害の防止を図る。
- ・ 土砂災害特別警戒区域に指定されている丸山地区、港町地区、浜町地区及び沢江地区については、災害防止の観点から、特に市街化を抑制する。
- ・ 既成市街地において災害発生の可能性のある地域については、地域防災計画に基づき、災害の防止に努める。

③ 自然環境形成の観点から必要な保全に関する方針

豊かな自然環境を有する山林原野、樹林地、丘陵地、海浜地、河川敷地等については、今後とも良好な自然環境の保全を図る。

④ 秩序ある都市的土地利用の実現に関する方針

用途地域の指定のない区域について、無秩序な土地利用や市街地の拡大を防ぐため、特定用途制限地域を定めることにより、土地利用の整序を図る。

2. 都市施設の整備に関する主要な都市計画の決定の方針

(1) 交通施設

① 基本方針

a 交通体系の整備の方針

本区域は、道央広域連携地域後志地域の北部に位置する地方中小都市であり、今後も都市内道路網の重要性は変わらないものと考えられる。

このため、広域的な交通に配慮した交通体系の形成を進めるとともに、都市内交通にも対応した交通体系の形成を図る。

交通施設の整備は、効率性、快適性のほか、安全性や環境との調和を考慮し、各交通手段が適切に役割分担した交通体系となるよう総合的かつ一体的に進めるとともに人口減少等の社会情勢の変化に対応した都市の将来像を実現する交通体系の観点から、長期未着手の都市計画道路の見直しを含めた検討を進める。

また、社会情勢の変化とともに、都市交通のニーズが高度化並びに多様化していることから、交通量に基づく施設整備の考え方と情報技術等を活用し、既存の交通施設を有効利用する考え方を連動させた総合的な視点で交通施設整備を検討する。

これらの考えのもとに、基本方針は次のとおりとする。

- ・都市間や空港及び港湾等との広域的な交流・連携を支える高速交通ネットワークの形成を図り、アクセス道路の整備を進める。
- ・多様な都市活動を支え、円滑な自動車交通を確保するために、都市の骨格となる都市内道路網の形成を進める。
- ・歩行者や自転車の安全で快適な通行を確保するために、歩行者や自転車交通のネットワークの形成やバリアフリー化を進める。
- ・公共交通の利用促進のために、沿道の土地利用と連動した公共交通軸の形成や交通結節点の整備を進める。
- ・住民生活の安全性、利便性及び自然災害への対応にも配慮した道路網の形成に努める。

#### b 整備水準の目標

交通体系については、広域的かつ長期的視点に立って必要な路線の道路機能確保に努め、当面の整備水準は以下のとおりとする。

	平成 27 年 (2015 年) (基準年)	令和 12 年 (2030 年) (目標年)
幹線街路網密度	5.32 km/km <sup>2</sup>	5.31 km/km <sup>2</sup>

※令和元年 (2019 年) の用途地域面積変更による幹線街路網密度の変更

### ② 主要な施設の配置の方針

#### a 道路

- ・3・4・1号大通線 (国道 229 号) 及び 3・5・3号入舟線 (国道 229 号) を都市の骨格となる道路とする。
- ・3・5・2号東大通線 (一般道道古平神恵内線) 及びその他の都市計画道路を配置し、都市内道路網を形成する。

### (2) 下水道及び河川

#### ① 基本方針

##### a 下水道及び河川の整備の方針

###### ア 下水道

都市の健全な発展と生活環境の改善、公共用水域の水質保全及び浸水の防除を図るため、下水道整備を促進する。

###### イ 河川

自然環境等に配慮しつつ、防災と親水を目的として河川及び水辺空間の整備に努める。

#### b 整備水準の目標

##### ア 下水道

本区域の下水道普及率は、平成 27 年 (2015 年) で 81.8% であり、今後も市街地の下水道の普及を目指し、整備の促進を図る。

## イ 河川

河川については、治水の安全度の向上に努めるとともに、周辺環境に配慮した河川の整備に努める。

### ② 主要な施設の配置の方針

#### a 下水道

古平町公共下水道については、下水管渠及びポンプ場を確保し、浜町地区に処理場を適切に配置する。

#### b 河川

古平川及び古平冷水川を主とする河川については、各種開発事業等との調整を図りつつ、総合的な治水対策を促進するとともに、自然環境と市街地が融合する河川及び水辺空間の整備に努める。

### (3) その他の都市施設

- ・古平町火葬場については、施設の整備等に関する計画を踏まえて適正な維持管理又は建替整備等を行い、必要に応じて都市計画変更を行う。
- ・ごみ焼却場及びごみ処理場等の都市施設について、それぞれの施設の整備に関する計画等を踏まえて適切な位置に配置し、公益性並びに恒久的な性格を有するものについては、都市計画決定に向けた検討を行う。

## 3. 自然的環境に関する主要な都市計画の決定の方針

### (1) 基本方針

本区域は、日本海に面した市街地背後に広がるゆるやかな丘陵地と市街地を流れる古平川及び古平冷水川の河川空間を骨格とし、また市街地に接している海岸線及び樹林地はニセコ積丹小樽海岸国定公園に指定され良好な自然環境を形成している。

本区域の都市環境の現状を踏まえた上で、環境保全、レクリエーション、防災、景観構成及びその他の機能が総合的に発揮され、かつ、緑とオープンスペースのネットワークやコンパクトなまちづくりに対応するように緑地の整備、再整備又は保全を行い、緑地全体の適正配置を図る。

### (2) 緑地の配置の方針

#### ① 緑地系統ごとの配置方針

##### a 環境保全系統

都市の骨格となる緑地として、中島公園を配置する。

##### b レクリエーション系統

日常圏的なレクリエーション活動に対処する緑地として、街区公園及び中島公園を配置する。

##### c 防災系統

災害時における避難地及び防災拠点として、中島公園を配置する。

##### d その他の系統

清光苑を配置し、既存樹林地等周辺の自然的環境と一体的に静寂な土地を保全する。

② コンパクトなまちづくりに対応する緑地の配置方針

コンパクトなまちづくりを進めるため、区域内の公園緑地の適正配置を進める。

また、人口減少等の社会情勢やニーズの変化に対応した緑地の適正配置を実現する観点から、区域内の公園緑地等が都市の利便性上より有効になるよう配置する。

(3) 実現のための具体の都市計画制度の方針

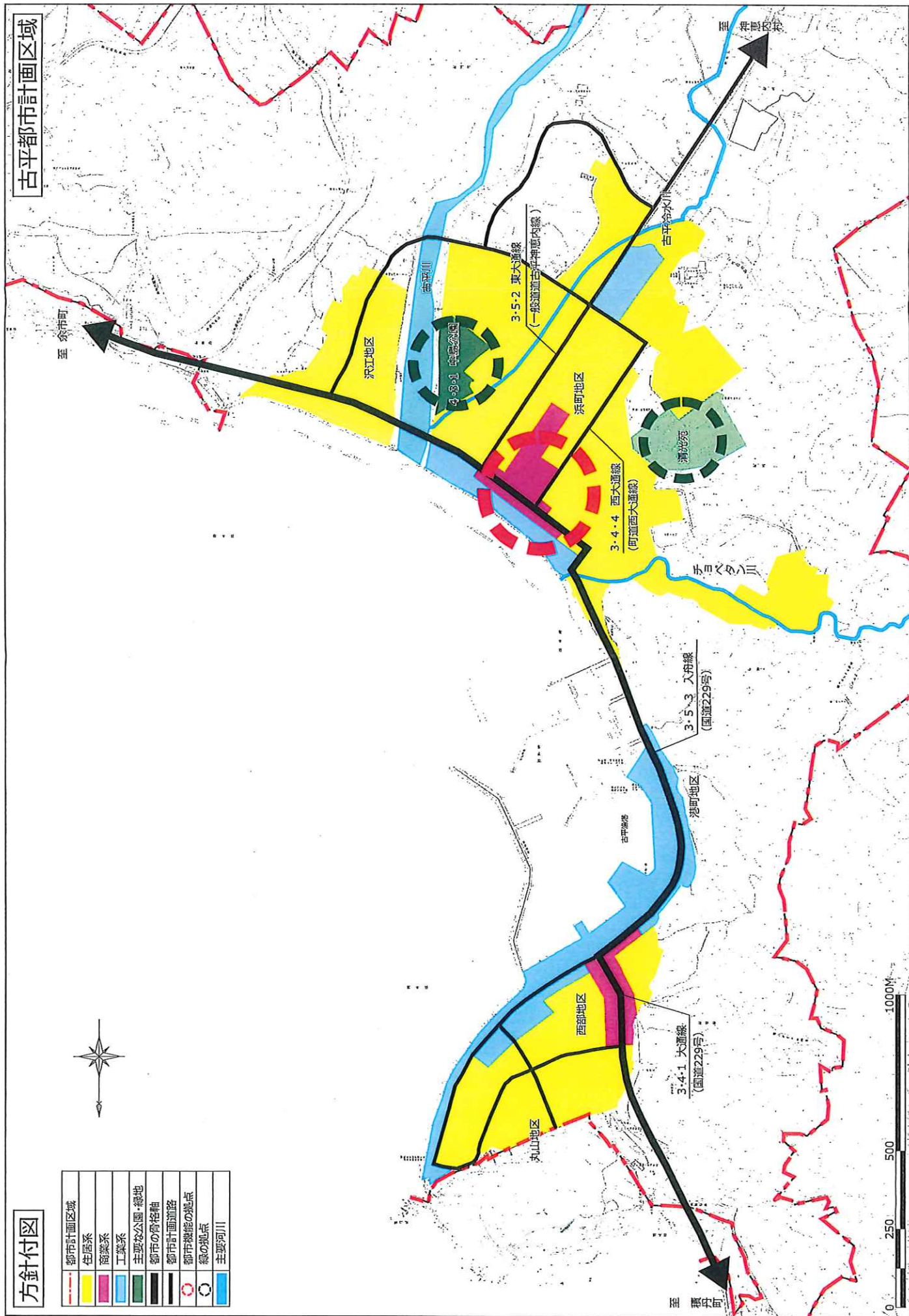
都市における緑地の適正な保全及び緑化の推進を総合的かつ計画的に進めるため、都市緑地法の規定に基づく「緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画」の策定を検討するとともに、必要なものを公園等の都市施設や特別緑地保全地区等の地域地区として定める。

# 方針付図

	都市計画区域
	住居系
	商業系
	工業系
	主要な公園・緑地
	都市の骨格軸
	都市計画道路
	都市機能の拠点
	線の拠点
	主要河川



# 古平都市計画区域







古平都市計画区域の整備、開発及び保全の方針／新旧対照表

【新】	【旧】	【変更理由】																
<p>I. 都市計画の目標</p> <p>1. 基本的事項</p> <p>(1) 目標年次</p> <p>この方針では、古平都市計画区域（以下「本区域」という。）について、将来の姿を展望しつつ、土地利用、都市施設等の決定方針を令和12年（2030年）の姿として策定する。</p>	<p>I. 都市計画の目標</p> <p>1. 基本的事項</p> <p>(1) 目標年次</p> <p>都市づくりの基本理念、将来の都市構造、土地利用、都市施設の決定方針を平成32年の姿として策定する。</p>	<p>※区域マスの表現の統一化 ※年次の修正</p>																
<p>(2) 範囲</p> <p>本区域の範囲及び規模は次のとおりである。</p> <table border="1" data-bbox="478 672 638 1344"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>市町名</th> <th>範囲</th> <th>規模</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>古平都市計画区域</td> <td>古平町</td> <td>行政区域の一部</td> <td>約703 ha</td> </tr> </tbody> </table>	区分	市町名	範囲	規模	古平都市計画区域	古平町	行政区域の一部	約703 ha	<p>(2) 範囲</p> <p>本区域の範囲及び規模は次のとおりである。</p> <table border="1" data-bbox="478 1344 638 2190"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>市町名</th> <th>範囲</th> <th>規模</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>古平都市計画区域</td> <td>古平町</td> <td>行政区域の一部</td> <td>約682 ha</td> </tr> </tbody> </table>	区分	市町名	範囲	規模	古平都市計画区域	古平町	行政区域の一部	約682 ha	<p>※測量精度の高度化による修正</p>
区分	市町名	範囲	規模															
古平都市計画区域	古平町	行政区域の一部	約703 ha															
区分	市町名	範囲	規模															
古平都市計画区域	古平町	行政区域の一部	約682 ha															
<p>2. 都市づくりの基本理念</p> <p>(1) 都市の現状と課題</p> <p>本区域は、道央広域連携地域後志地域にある種丹半島の北東部に位置しており、地形は南北に長く、中央部を古平川が貫流しており、海岸線は「ニセコ種丹小樽海岸国定公園」に指定されている。</p> <p>市街地は、古平川河口周辺の平坦地を中心に、海岸線と一般道古平神恵内線沿線を中心に形成されてきた。</p> <p>産業については、日本海の豊かな水産資源を背景とした漁業と水産加工業を基幹産業として発展してきた。</p> <p>しかしながら、漁獲量の減少や漁業従業者の高齢化が進んでおり、水産加工業の総生産高の減少傾向にある。</p> <p>サービス業や小売業、運輸業などの第3次産業についても就業人口は減少し、経営者の高齢化と後継者不足、購買力の流出などが問題となっており、今後の自然環境や景観の保全により環境と共生する都市づくりを進め、観光等と連携した取り組みによる市街地の活性化が求められている。</p> <p>また、少子高齢化の進行と若年層の町外への流出等により、人口は減少傾向にあり、高齢社会への対応や定住の促進等を図るため、都市環境や生活環境の充実が求められている。</p>	<p>2. 都市づくりの基本理念</p> <p>(1) 都市の現状と課題</p> <p>古平町は、道央広域連携地域後志地域にある種丹半島の北東部に位置しており、地形は南北に長く、中央部を古平川が貫流しており、海岸線は「ニセコ種丹小樽海岸国定公園」に指定されている。</p> <p>市街地は、古平川河口周辺の平坦地を中心に、海岸線と一般道古平神恵内線沿線を中心に形成されてきた。</p> <p>産業については、日本海の豊かな水産資源を背景とした漁業と水産加工業を基幹産業として発展してきた。</p> <p>しかしながら、漁獲量の減少や漁業従業者の高齢化が進んでおり、水産加工業の総生産高の減少傾向にある。</p> <p>サービス業や小売業、運輸業などの第3次産業についても就業人口は減少し、経営者の高齢化と後継者不足、購買力の流出などが問題となっており、今後の自然環境や景観の保全により環境と共生する都市づくりを進め、観光等と連携した取り組みによる市街地の活性化が求められている。</p> <p>また、少子高齢化の進行と若年層の町外への流出等により、人口は減少傾向にあり、高齢社会への対応や定住の促進等を図るため、都市環境や生活環境の充実が求められている。</p>	<p>※区域マスの表現の統一化による修正</p>																
<p>(2) 都市づくりの基本理念</p> <p>古平町では、地場産業の活性化、安心して暮らせる環境の整備、健康で生きがいのある生活の創造を目指し、行政と住民が一体となってまちづくりを進めるため、その基本目標を</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古平の気質が発揮され、まちづくりに参加する、人間性豊かなまち</li> <li>・みんなが心豊かに、お年寄りも安心して暮らすまち</li> <li>・古平の魅力が活かされ、みんなが快楽で永く住み続けるまち</li> <li>・地場産業の新たな取組みが夢を結び、若者が働き続けられるまち</li> </ul>	<p>(2) 都市づくりの基本理念</p> <p>古平町では、地場産業の活性化、安心して暮らせる環境の整備、健康で生きがいのある生活の創造を目指し、行政と住民が一体となってまちづくりを進めるため、その基本目標を</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古平の気質が発揮され、まちづくりに参加する、人間性豊かなまち</li> <li>・みんなが心豊かに、お年寄りも安心して暮らすまち</li> <li>・古平の魅力が活かされ、みんなが快楽で永く住み続けるまち</li> <li>・地場産業の新たな取組みが夢を結び、若者が働き続けられるまち</li> </ul>	<p>※区域マスの表現の統一化による修正</p> <p>※古平都市計画マスタープラン（H31.3策定）による修正（P26を引用）</p>																

<p>として、</p> <p>本区域の都市づくりにおいては、このことを踏まえるとともに、今後は人口の減少や少子高齢化が進行することから、市街地の拡大を抑制し、都市の防災性の向上を図られ、都市の既存ストックの有効活用を促進することにより、様々な都市機能がコンパクトに集積した都市構造を目指す。</p> <p>II. 区域区分の決定の有無</p> <p>1. 区域区分の有無</p> <p>本区域に区域区分は定めない。なお、区域区分を定めなかったとした根拠は以下のとおりである。</p> <p>本区域は、従来より都市の規模及び人口、産業の動向等から急激かつ無秩序な市街化の進行は見られず、用途地域周辺の農林漁業への影響も少ないことから、非線引き都市計画区域としてきたところである。</p> <p>現在、人口及び世帯数は減少の傾向を示し、産業については停滞している状況であり、今後ともこれらが増加、発展に転じることは容易ではないと推測される。</p> <p>今後は、未利用地等を有効活用しながら、これまで整備を進めてきた都市基盤を活用したコンパクトな内部充塞型のまちづくりを基本とするため、将来の市街地については現在の市街地と同程度と想定し、農林漁業と健全な調和を図りながら、豊かな自然環境や景観の保全に努める都市づくりを進める。</p> <p>これに加え市街地の規模に大きな影響を与える大規模プロジェクト等の予定もないことから、今後においても急激かつ無秩序な市街化の進行は見込まれないものと判断し、区域区分は定めないこととする。</p>	<p>本区域の都市づくりにおいては、このことを踏まえるとともに、今後は人口の減少や少子高齢化が進行することから、市街地の拡大を抑制し、都市の既存ストックの有効活用を促進することにより、様々な都市機能がコンパクトに集積した都市構造を目指す。</p> <p>II. 区域区分の有無</p> <p>本区域に区域区分は定めない。なお、区域区分を定めなかったとした根拠は以下のとおりである。</p> <p>本区域は、従来より都市の規模及び人口、産業の動向等から急激かつ無秩序な市街化の進行は見られず、用途地域周辺の農林漁業への影響も少ないことから、非線引き都市計画区域としてきたところである。</p> <p>現在、人口は減少の傾向を示し、産業については停滞している状況であり、今後ともこれらが増加、発展に転じることは容易ではないと推測される。</p> <p>また、世帯数についても減少の傾向を示しており、今後は、未利用地等を有効活用しながら、これまで整備を進めてきた都市基盤を活用したコンパクトな内部充塞型のまちづくりを基本とするため、将来の市街地については現在の市街地と同程度と想定し、農林漁業と健全な調和を図りながら、豊かな自然環境や景観の保全に努める都市づくりを進める。</p> <p>これに加え市街地の規模に大きな影響を与える大規模プロジェクト等の予定もないことから、今後においても急激かつ無秩序な市街化の進行は見込まれないものと判断し、区域区分は定めないこととする。</p>	<p>※区域マスの表現の統一化による修正</p> <p>※区域マスの表現の統一化による修正</p>
<p>III. 主要な都市計画の決定の方針</p> <p>1. 土地利用に関する主要な都市計画の決定の方針</p> <p>(1) 主要用途の配置の方針</p> <p>本区域では、3・5・3号入舟線（国道 229 号）を基軸とし、計画的に市街地整備が進められてきた。</p> <p>しかしながら、近年は、人口の減少・少子高齢化の進行、経済状況の変化など、都市を取り巻く環境の変化に対応するため、安全で快適な都市生活を持続可能とする都市を構築するコンパクトなまちづくり、さらには、低炭素型都市構造への転換を目指すし、本区域における住宅地、商業誘致地、工業・流通業誘地の各用途を次のとおり配置する。</p> <p>① 住宅地</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本区域の住宅地は、一般住宅地及び専用住宅地で構成する。</li> <li>・一般住宅地は、商業誘致地、工業・流通業誘地の周辺に配置し、複合的な土地利用を一定程度許容する住宅地として良好な住環境の形成及び保全を図る。</li> <li>・専用住宅地は、沢江地区、浜町地区及びペタン川周辺に配置し、引き続き住宅地として良好な住環境の形成及び保全を図る。</li> </ul> <p>② 商業業誘地</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本区域の商業地は、中心商業業誘地及び地域商業業誘地で構成する。</li> <li>・中心商業業誘地は、浜町地区の 3・5・3号入舟線（国道 229 号）と 3・4・4</li> </ul>	<p>III. 主要な都市計画の決定の方針</p> <p>1. 土地利用に関する主要な都市計画の決定の方針</p> <p>(1) 主要用途の配置の方針</p> <p>本区域では、3・5・3号入舟線（国道 229 号）を基軸とし、計画的に市街地整備が進められてきた。</p> <p>しかしながら、近年は、人口の減少・少子高齢化の進行、経済状況の変化など、都市を取り巻く環境の変化に対応するため、安全で快適な都市生活を持続可能とする都市を構築するコンパクトなまちづくり、さらには、低炭素型都市構造への転換を目指すし、本区域における住宅地、商業誘致地、工業・流通業誘地の各用途を次のとおり配置する。</p> <p>① 住宅地</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本区域の住宅地は、一般住宅地及び専用住宅地で構成する。</li> <li>・一般住宅地は、商業誘致地、工業・流通業誘地の周辺に配置し、複合的な土地利用を一定程度許容する住宅地として良好な住環境の形成及び保全を図る。</li> <li>・専用住宅地は、沢江地区、浜町地区及びペタン川周辺に配置し、引き続き住宅地として良好な住環境を維持する。</li> </ul> <p>② 商業業誘地</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浜町地区の 3・5・3号入舟線（国道 229 号）沿道には中心市街地が形成されており</li> </ul>	<p>※区域マスの表現の統一化による追記</p> <p>※区域マスの表現の統一化による追記</p> <p>※区域マスの表現の統一化による追記</p> <p>※区域マスの表現の統一化による追記</p>

<p>号六大通線(町道西大通線)の交点から3・5・2号東大通線(一般道道古平伸内線)の交点までの一帯に配置し、商業、業務施設等が集積する広域的な商業拠点の形成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地味商業業務地は、中心市街地の南西側隣接地区及び西部地区の3・4・1号大通線(国道229号)沿道に配置し、周辺住宅地の住環境に配慮した沿道商業地の形成を図る。</li> </ul>	<p>り、中心商業業務地を配置し、商業及び業務の利便の増進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地の南西側隣接地区及び本町地区の3・4・1号大通線(国道229号)沿道には地域商業業務地を配置し、各地域の利便の増進を図る。</li> </ul>	<p>※区域マスの表現の統一化による修正</p> <p>※区域マスの表現の統一化による修正</p> <p>※区域マスの表現の統一化による修正</p> <p>※古平町都市計画マスタープラン(H31.3策定)より表現を精査し追加(P95を引用)</p> <p>※区域マスの表現の統一化による修正</p> <p>※事業予定の変更による削除</p> <p>※古平町立地適正化計画(H31.1策定)による追加(P87を引用)</p>
<p>③ 工業・流通業務地</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般工業地を古平漁港北側の3・5・3号入舟線(国道229号)沿道、中心市街地の北側及び3・5・2号東大通線(一般道道古平伸内線)沿道の一部に配置し、古平漁港北側の3・5・3号入舟線(国道229号)沿道には漁業・水産加工工業業務施設が集積しており、工業地を配置し、漁業・水産加工工業の振興を図る。</li> <li>・一般工業地のうち、中心市街地の北側及び3・5・2号東大通線(一般道道古平伸内線)沿道の一部は、古くから工業地として土地利用がなされており、今後も工業地を配置し、その機能を維持する。</li> </ul>	<p>③ 工業地</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古平漁港北側の3・5・3号入舟線(国道229号)沿道には漁業・水産加工工業業務施設が集積しており、工業地を配置し、漁業・水産加工工業の振興を図る。</li> <li>・中心市街地の北側及び3・5・2号東大通線(一般道道古平伸内線)沿道の一部は、古くから工業地として土地利用がなされており、今後も工業地を配置し、その機能を維持する。</li> </ul>	<p>※区域マスの表現の統一化による修正</p> <p>※古平町都市計画マスタープラン(H31.3策定)より表現を精査し追加(P95を引用)</p> <p>※区域マスの表現の統一化による修正</p> <p>※事業予定の変更による削除</p> <p>※古平町立地適正化計画(H31.1策定)による追加(P87を引用)</p>
<p>④ 用途転換、用途強化又は用途の複合化に関する方針</p> <p>都市機能の存在が見られる地区については、都市構造の維持と周辺環境の調和に配慮し、適切な土地利用を検討する。</p>	<p>(2) 土地利用の方針</p> <p>① 用途転換、用途強化又は用途の複合化に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丸山町地区では、丸山トンネルの工事が完了し国道のルート変更が行われたことから、沿道市街地の再編と移転後の空地の利用を図るため、用途地域等の見直しを行う。</li> </ul>	<p>※区域マスの表現の統一化による修正</p> <p>※古平町都市計画マスタープラン(H31.3策定)より表現を精査し追加(P95を引用)</p> <p>※区域マスの表現の統一化による修正</p> <p>※事業予定の変更による削除</p> <p>※古平町立地適正化計画(H31.1策定)による追加(P87を引用)</p>
<p>(2) 市街地の土地利用の方針</p> <p>① 土地の高度利用に関する方針</p> <p>役場周辺の中心拠点を含む浜町地区について、都市機能を誘導する区域とし、都市機能の維持更新・集約を図る。</p>	<p>② 都市内の緑地又は都市の風致の維持に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中島公園を中心とした公園の緑地空間は、良好な都市環境を構成するうえで重要な緑であり、市街地内の緑地として今後も適正に保全を図る。</li> </ul>	<p>※区域マスの表現の統一化による修正</p> <p>※古平町都市計画マスタープラン(H31.3策定)より表現を精査し追加(P95を引用)</p> <p>※区域マスの表現の統一化による修正</p> <p>※事業予定の変更による削除</p> <p>※古平町立地適正化計画(H31.1策定)による追加(P87を引用)</p>
<p>(3) その他の土地利用の方針</p> <p>① 優良な農地との健全な調和に関する方針</p> <p>本区域のうち、集团的農用地や、国・道沿の土地改良事業等各種農業投資が実施されている区域及び実施を予定している区域の農地等については、健全な農業の維持と発展を図るため、今後とも優良な農用地としてその保全に努め、特に、農業振興地域の整備に関する法律第8条第2項第1号に規定する農用地区域については、「農業上の利用を図るべき土地」として用途地域放たの対等とはしない。</p>	<p>③ 優良な農地との健全な調和に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本区域のうち、集团的農用地や、国・道沿の土地改良事業等各種農業投資が実施されている区域及び実施を予定している区域の農地等については、健全な農業の維持と発展を図るため、今後とも優良な農用地としてその保全に努め、特に、農業振興地域の整備に関する法律第8条第2項第1号に規定する農用地区域については、「農業上の利用を図るべき土地」として今後とも優良な農用地としてその保全に努める。</li> </ul>	<p>※区域マスの表現の統一化による修正</p> <p>※古平町都市計画マスタープラン(H31.3策定)より表現を精査し追加(P95を引用)</p> <p>※区域マスの表現の統一化による修正</p> <p>※事業予定の変更による削除</p> <p>※古平町立地適正化計画(H31.1策定)による追加(P87を引用)</p>

※区域マスの表現の統一化による修正

※古平町地域防災計画 (R2.1 策定) による追加 (P123 を引用)

※区域マスの表現の統一化による修正

※状況の変化による削除、追記

※区域マスの表現の統一化による修正

※区域マスの表現の統一化による修正

④ 災害防止の観点から必要な市街化の抑制に関する方針

- ・ 溢水、浸水、津波、高潮、がけ崩れその他の災害発生の可能性のある地区については、市街化を抑制し、緑化の促進や保全に努め、災害の防止を図る。

⑤ 自然環境形成の観点から必要な保全に関する方針

- ・ 農地や樹林地、河川などの貴重な自然環境・緑地空間については、今後とも良好な自然環境の保全を図る。

⑥ 計画的な都市的土地利用の実現に関する方針

- ・ 古平町等学校南側の用途白地地域には、医療・福祉施設が立地しており、今後、医療・福祉の拠点として機能の増進を図るため、必要に応じて用途地域等を定めることにより、土地利用の規制・誘導を図る。
- ・ 古平漁港のうち漁港施設の整備が行われた地区については、用途地域を定め、漁港として適切な土地利用を図る。

2. 都市施設の整備に関する主要な都市計画の決定の方針

(1) 交通施設

① 基本方針

a 交通体系の整備の方針

古平町は、道央広域圏連携地域後志地域の北部に位置する地方中小都市であり、今後も都市内道路網の重要性は変わらないものと考えられる。このため広域的な交通に配慮した交通体系の形成を進めるとともに、都市内交通にも対応した交通体系の形成を図る。

交通施設の整備は、効率性、快適性のほか、安全性や環境との調和を考慮し、各交通手段が適切に役割分担した交通体系となるよう総合的・一体的に進める。また、人口減少等の社会情勢の変化とともに、都市交通のニーズが高度化・多様化していることから、交通量に基づき施設整備の考え方と、情報技術を活用し、既存の交通施設を有効利用する考え方を運動させた総合的な視点で、交通施設整備を検討する。

これらの考えの基に、基本方針は次のとおりとする。

- ・ 都市間や空港、港湾等との広域的な交流・連携を支える高速交通ネットワークの形成に合わせ、アクセス道路の整備を進める。
- ・ 多様な都市活動を支え、円滑な自動車交通を確保するために、都市の骨格となる都市内道路網の形成を進める。
- ・ 歩行者や自転車の安全で快適な通行を確保するために、歩行者や自転車のネットワークの形成やバリアフリー化を進める。
- ・ 公共交通の利用促進のために、沿道の土地利用と連動した公共交通軸の形成や、交通結節点の整備などを進める。
- ・ 住民生活の安全性、利便性、および自然災害への対応にも配慮した道路網の形成に努める。

② 災害防止の観点から必要な市街化の抑制に関する方針

- ・ 溢水、浸水、津波、高潮、がけ崩れその他の災害発生の可能性のある地区については、市街化を抑制し、緑化の促進や保全に努め、災害の防止を図る。
- ・ 土砂災害特別警戒区域に指定されている丸山地区、港町地区、栗町地区及び沢江地区については、災害防止の観点から、特に市街化を抑制する。
- ・ 既成市街地において災害発生の可能性のある地域については、地域防災計画に基づき、災害の防止に努める。

③ 自然環境形成の観点から必要な保全に関する方針

豊かな自然環境を有する山林原野、樹林地、丘陵地、海浜地、河川敷地等については、今後とも良好な自然環境の保全を図る。

④ 秩序ある都市的土地利用の実現に関する方針

用途地域の指定のない区域について、無秩序な土地利用や市街地の拡大を防ぐため、特定用途制限地域を定めることにより、土地利用の誘導を図る。

2. 都市施設の整備に関する主要な都市計画の決定の方針

(1) 交通施設

① 基本方針

a 交通体系の整備の方針

本区は、道央広域圏連携地域後志地域の北部に位置する地方中小都市であり、今後も都市内道路網の重要性は変わらないものと考えられる。このため、広域的な交通に配慮した交通体系の形成を進めるとともに、都市内交通にも対応した交通体系の形成を図る。

交通施設の整備は、効率性、快適性のほか、安全性や環境との調和を考慮し、各交通手段が適切に役割分担した交通体系となるよう総合的・一体的に進める。また、人口減少等の社会情勢の変化に対応した都市の将来像を要する交通体系の観点から、長期未着手の都市計画道路の見直しを含めた検討を進める。

また、社会情勢の変化とともに、都市交通のニーズが高度化並びに多様化していることから、交通量に基づき施設整備の考え方と情報技術を活用し、既存の交通施設を有効利用する考え方を運動させた総合的な視点で交通施設整備を検討する。

これらの考えのもとに、基本方針は次のとおりとする。

- ・ 都市間や空港、港湾等との広域的な交流・連携を支える高速交通ネットワークの形成を図り、アクセス道路の整備を進める。
- ・ 多様な都市活動を支え、円滑な自動車交通を確保するために、都市の骨格となる都市内道路網の形成を進める。
- ・ 歩行者や自転車の安全で快適な通行を確保するために、歩行者や自転車のネットワークの形成やバリアフリー化を進める。
- ・ 公共交通の利用促進のために、沿道の土地利用と連動した公共交通軸の形成や、交通結節点の整備を進める。

・住民生活の安全性、利便性及び自然災害への対応にも配慮した道路網の形成に努める。

**b 整備水準の目標**

交通体系については、広域的かつ長期的視点に立って必要な路線の道路機能確保を図る。当面の整備水準は以下のとおりとする。

幹線街路網密度	平成27年(2015年) (基準年)	令和12年(2020年) (目標年)
	5.32 km/km <sup>2</sup>	5.31 km/km <sup>2</sup>

※令和元年(2019年)の用途地域面積変更による幹線街路網密度の変更

**② 主要な施設の配置の方針**

- a 道路**
- ・3\_4\_1号大通線(国道229号)及び3\_5\_3号入舟線(国道229号)を都市の骨格となる道路とする。
  - ・3\_5\_2号東大通線(一般道古平神恵内線)及びその他の都市計画道路を配置し、都市内道路網を形成する。

**(2) 下水道及び河川**

**① 基本方針**

- a 下水道及び河川の整備の方針**
- ア 下水道**
- ・都市の健全な発展と生活環境の改善、公共用水域の水質保全及び浸水の防止を図るため、下水道整備を促進する。
- イ 河川**
- ・自然環境等に配慮しつつ、防災と親水を目的として河川及び水辺空間の整備に努める。

**b 整備水準の目標**

- ア 下水道**
- ・本区域の下水道普及率は、平成27年(2015年)で81.8%であり、今後都市街地の下水道の普及を目指し、整備の促進を図る。
- イ 河川**
- ・河川については、治水の安全度の向上に努めるとともに、周辺環境に配慮した河川の整備に努める。

**② 主要な施設の配置の方針**

- a 下水道**
- ・古平町公共下水道については、下水管渠及びポンプ場を確保し、浜町地区に処理場を適切に配置する。

・長期未着手の都市計画道路の見直しを含めた検討を進める。

**b 整備水準の目標**

交通体系については、広域的かつ長期的視点に立って整備を図っていくものとするが、当面次のような整備水準を目標とする。

・街路網については、各道路機能に応じて段階的な整備を進め、都市計画道路の整備を図る。

年次	平成17年(基準年)	平成32年(目標年)
幹線街路網密度	5.73 km/km <sup>2</sup>	5.73 km/km <sup>2</sup>

**② 主要な施設の配置の方針**

- a 道路**
- ・3\_4\_1号大通線(国道229号)及び3\_5\_3号入舟線(国道229号)を都市の骨格となる道路とする。
  - ・3\_5\_2号東大通線(一般道古平神恵内線)及びその他の都市計画道路を配置し、都市内道路網を形成する。

**(2) 下水道及び河川**

**① 基本方針**

- a 下水道及び河川の整備の方針**
- ア 下水道**
- ・生活環境の改善、公共用水域の水質保全及び浸水の防止を図り、都市の健全な発展と衛生環境の向上に努めるため、下水道整備を促進する。
- イ 河川**
- ・自然環境等に配慮しつつ、防災と親水を目的として河川及び水辺空間の整備に努める。

**b 整備水準の目標**

- ア 下水道**
- ・本区域の下水道普及率は平成17年で57.1%であり、今後都市街地の下水道の普及を目指し、整備の促進を図る。
- イ 河川**
- ・河川については、治水安全度の向上に努めるとともに、周辺環境に配慮した河川の整備に努める。

**② 主要な施設の配置の方針**

- a 下水道**
- ・生活排水、産業排水などによる水質汚濁や雨水による浸水の被害を防ぎ、衛生的な都市生活の充実と確保を目標として、将来的な土地利用と整備を図りながら古平公共下水道の整備を促進し、未整備地区内の普及を図るとともに、適切な政策更新を図る。

※区域マスの表現の統一化による修正

※目標年次の修正

※整備延長措置による幹線街路網密度の修正

※区域マスの表現の統一化による修正

※目標年次の修正

※区域マスの表現の統一化による修正

※区域マスの表現の統一化による修正

<p>b 河川 古平川及び古平冷水川を主とする河川については、各種開発事業等との調整を図りつつ、総合的な治水対策を促進するとともに、自然環境と市街地が融合する河川及び水辺空間の整備に努める。</p> <p>(3) その他の都市施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古平野火葬場については、施設の整備等に関する計画を踏まえ、適正な維持管理又は建替整備等を行い、必要に応じて都市計画変更を行う。</li> <li>・ごみ焼却場及びびごみ処理場等の都市施設について、それぞれの施設の整備に関する計画等を踏まえ、適切な位置し、公益性及び恒久的な性格を有するものについては、都市計画決定に向けた検討を行う。</li> </ul>	<p>※区域マスの表現の統一化による修正</p> <p>※状況の変化による削除</p> <p>※区域マスの表現の統一化による修正</p>
<p>b 河川 古平川、古平冷水川などの河川については、各種開発事業等との調整を図りつつ、親水機能にも配慮した自然と触れ合う水辺空間の活用や、総合的な治水対策などに努める。</p> <p>③ 主要な施設の整備目標</p> <p>a 下水道</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地の未整備地区の幹線管渠の整備を促進する。</li> </ul> <p>(3) その他の都市施設</p> <p>① 基本方針</p> <p>a 廃棄物処理施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民間事業者等による一般廃棄物処理施設については、「北の海道循環型社会推進基本計画」、「北の海道廃棄物処理計画」、「ごみ処理の広域化計画」、古平町において定める「一般廃棄物処理基本計画」等における位置づけ等を踏まえ、公益性及び恒久的な性格を有するものについては、都市計画決定に向けた検討を行う。</li> <li>・産業廃棄物処理施設は、「北の海道循環型社会推進基本計画」及び「北の海道廃棄物処理計画」に基づき、適切な立地及び施設整備となるよう誘導を図るとともに、各計画における位置づけ等を踏まえ、公益性及び恒久的な性格を有するものについては、都市計画決定に向けた検討を行う。</li> </ul> <p>b 火葬場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浜町地区西側に配置している火葬場については、引き続き施設の維持保全を図る。</li> </ul> <p>② 主要な施設の配置の方針</p> <p>a 火葬場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火葬場は浜町地区西側に配置し、引き続き施設の維持保全を図る。</li> </ul> <p>3. 自然的環境の整備又は保全に関する主要な都市計画の決定の方針</p> <p>(1) 基本方針</p> <p>本区域は、日本海に面した市街地背後に広がるゆるかや丘陵地と市街地を流れる古平川及び古平冷水川の河川空間を骨格とし、また市街地に接している海岸線及び樹林地はニセコ稚丹小樽海岸国定公園に指定され良好な自然環境を形成している。本区域の都市環境の現状を踏まえ、かつ、環境保全、レクリエーション、防災、景観形成及びその他の機能が総合的に発揮され、緑とオープンスペースのネットワークを構築し、緑地全体の適正配置を図る。</p> <p>(2) 緑地の配置の方針</p> <p>① 緑地系統ごとの配置方針</p> <p>a 環境保全系統</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市の骨格となる緑地として、中島公園を配置する。</li> </ul>	<p>※区域マスの表現の統一化による修正</p> <p>※区域マスの表現の統一化による修正</p> <p>※区域マスの表現の統一化による修正</p> <p>※区域マスの表現の統一化による修正</p> <p>※区域マスの表現の統一化による修正</p>

b. レクリエーション系統  
巨額適的なレクリエーション活動に対処する緑地として、街区公園及び中島公園を配置する。

c. 防災系統  
災害時における避難地及び防災拠点として、中島公園を配置する。

d. その他の系統  
灌漑水を配置し、既存樹林地等周辺の自然環境と一体的に静寂な土地を保全する。

② コンパクトなまちづくりに対応する緑地の配置方針  
コンパクトなまちづくりを進めるため、区域内の公園緑地の適正配置を進める。また、人口減少等の社会情勢やニーズの変化に対応した緑地の適正配置を実現する観点から、区域内の公園緑地等が都市の利便性上より有効になるよう配置する。

(3) 実現のための具体的都市計画制度の方針  
都市における緑地の適正な保全及び緑化の推進を総合的かつ計画的に進めるため、都市緑地法の規定に基づく「緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画」の策定を検討するとともに、必要なものを公園等の都市施設や特別緑地保全地区等の地域地区として定める。

調査し、住民の身近なレクリエーション活動の場や地震、火災などの防災発生時の一時避難地として住区基幹公園、緑地の適正な配置、整備を図ることとし、中島公園などの配置、整備を図る。  
・多様なレクリエーション活動、災害発生時の復旧活動の拠点などとして機能する都市基幹公園、地域の特性を活かした多様な公園、緑地などの適正な配置、整備を図ることとし、消火栓などの配置、整備を図る。  
・自然性に富んだ緑地や風致の維持、良好な景観形成に資する緑地の保全に努める。  
・古平川、古平冷川などの河川空間や幹線道路の道路空間などの緑を充実し、緑豊かで潤いのある水と緑のネットワークの形成に努める。

※区域マスの表現の統一化による追記

※区域マスの表現の統一化による修正

(3) 実現のための具体的都市計画制度の方針  
・緑の保全、創出に関する施策をより総合的かつ計画的に進めるため、緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画（以下「緑の基本計画」という。）などの策定に努める。  
・緑の基本計画などを踏まえ、必要なものを公園、緑地などの都市施設、風致地区などの地域地区として、都市計画決定を行う。